

H24.11.03

医者と患者の関係性



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。

Dr.

和の医者曰く

「医者の本音」シリーズ最終回

てくれたのです。
私はAさんに育てられました。難しい病気の見方も、難しい薬の使い方も、すべてAさんが率先して「実験台」になっていたきました。そんな患者さんを失つたことは本当に辛いことでした。

尼崎の地で開業して18年。開業当日、診察券は1番から番号を振ってきました。番号は2万4千を超えた。現在在通院されている患者さんは「2万4千を超えた」と、すべて「ことばかり」です。しかし失敗しても、いつも笑って許してきました。Aさんは私一人一人連れてきました。そしたら自分の家族や友人も

愛し合っていると思っていました。恋人に、ある日突然浮気されたようなショックを受けることがあります。「ああ、自分で現在も通院された方は」「なぜかです。みなさん、どこかに移られたか、亡くなられたかのどちらかです。おそらく後者の方が多いのでしょうか。時代の流れ、時間の無常を感じます。

かかりつけ医とはAさんのようなケースです。Aさんは自分のどこかが足りなかつたんだ。何か間違いをしたのかな」。かなうならば「振られた理由」を聞いてみたいくらいあります。病院は変わつても、

患者と「長ーく付き合いたい」

医者と患者の関係の礎は、信頼関係にあります。医者は患者を選べませんから、患者さんが医者をどれだけ信頼してくれるかにかかっています。常に受け身ですから、信頼されていると思っていても、プライと来られなくなる患者さんもいます。

かかりつけ医とはAさんのようなケースです。Aさんは自分のどこかが足りなかつたんだ。何か間違いをしたのかな」。かなうならば「振られた理由」を聞いてみたいくらいあります。病院は変わつても、

私は26年間かかっていたいた患者さんで、Aさんといつて初めて受け持った患者さんです。その後、私の職場が変わってもずっと来てくださいました。大学病院にも来られましたし、アルバイト先の病院にも来られました。気がついたら自分の家族や友人も一人一人連れてきました。そしてなんだかんだいながら四半世紀以上、Aさんは私

で、診察券番号が2ケタの方で、診察券番号が2ケタの方で現在も通院された方は」「なぜかです。みなさん、どこかに移られたか、亡くなられたかのどちらかです。おそらく後者の方が多いのでしょうか。時代の流れ、時間の無常を感じます。

かかりつけ医とはAさんのようなケースです。Aさんは自分のどこかが足りなかつたんだ。何か間違いをしたのかな」。かなうならば「振られた理由」を聞いてみたいくらいあります。病院は変わつても、

かかりつけ医とはAさんのようなケースです。Aさんは自分のどこかが足りなかつたんだ。何か間違いをしたのかな」。かなうならば「振られた理由」を聞いてみたいくらいあります。病院は変わつても、

ひ ょ う び